

A small exhibition in a small warehouse



ちいさな

蔵の展覧会

2020

前期展示

後期展示

【会期】2020.4.29(水・祝) ▶ 7.26(日) / 8.5(水) ▶ 10.12(月) 10:00-18:00 (入館は17:30まで)

【入館料】200円

※高校生以下の方、障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方と介助者1名は無料
※チケットの半券で前期・後期毎に会期中何度でもご入場いただけます

【休館日】火曜日

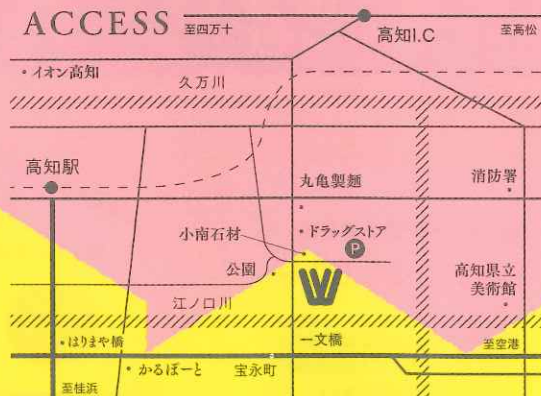
※5/5(火・祝)は臨時開館

【主催・会場】藁工ミュージアム 【協力】アートセンター画楽、高知さをりひろば、すずめ三里ホーム、宇野薫

【展示作家】

開徳由理 Yuri Kaitoku

ACCESS



【車で】JR高知駅より約5分。高知ICより約5分。高知龍馬空港より約30分。【路面電車で】はりまや橋からとさでん交通ごめん方面行きで約5分。「宝永町(ほうえいちよう)」電停下車徒歩約8分。【バスで】高知龍馬空港からとさでん交通バスまたは高知駅前観光「空港連絡バス」で約30分。「宝永町(ほうえいちよう)」停留所下車徒歩約10分。

駐車場はアートゾーン藁工倉庫北側に約20台ありますが、イベントなどによって満車になる場合もありますので、出来るだけ公共交通などでお越しください。

「ちいさな蔵の展覧会」

この展覧会シリーズでは、高知県在住の方を中心とした障がいのあるアーティストや作り手による作品を紹介していきます。2016年から引き続き5回目の開催です。今回は、20年以上制作活動に取り組んできた作家開徳由理の絵画・さをり作品を前期/後期に分けて紹介します。

MUSEUM OF ART WARAKOH

藁工ミュージアム [アートゾーン藁工倉庫]

高知市南金田28 / TEL.088・879・6800

<http://warakoh-museum.com/>

<https://www.facebook.com/warakoh.museum/>

https://www.instagram.com/warakoh_museum/

藁工ミュージアムでは、障がいのある方の表現活動等に関する相談も随時受け付けております。

お気軽にお問い合わせください。

ちいさな蔵の展覧会

A small exhibition in a small warehouse

2020

前期では、主に「花」と「人物」をテーマにした作品を取り上げます。また後期では、「自宅での制作」、「アートセンター画楽での制作」、「絵画と並行して取り組む「さをり織り」と絵画の関係性」にスポットを当てて紹介。

前期・後期を通じて、大胆な筆使いによる色鮮やかな作品と共に、制作時期ごとの作風の変化を合わせてご覧ください。



「誕生・叙事詩」より ①幼い原子胞子 / 2002年
735×1035mm



「おはな」 / 2007年 1305×1620mm



「あじさい」 / 2012年 1315×1960mm

Artist

開徳由理

Yuri Kaitoku



1969年高知県に生まれる。

開徳さんは最近大きな絵を描かなくなった。出会ってから20年以上になるが、彼女を初めて知った頃、その手から生み出され迷わず幾重にも重ねられる無垢な筆跡には、なぜか心を動かされる力があつた。

出会った頃にはもうすでに30歳を超えていたと思うが、それ以来、彼女と一緒に絵を描いた時間を振り返ると、子供が絵の具やクレヨンを手にしてカレンダーの裏紙に嬉々として絵を描く姿から始まり、だんだんと彼女なりに描くことの意味を獲得し、上手くかけることによって周りの大人に「ほら、私を見て!」という時代、そして自分なりのスタイルを獲得して、どんどん魅力的な作品を生み出す円熟期と変遷していったように思う。最近では大きな絵を描くことに飽きたのかキャンバスを貼って描かない?と誘っても応えてくれない。

この展覧会がきっかけとなって、再び彼女のスイッチが入ることを願う。

(文:アートセンター画楽代表 上田祐嗣)

出展歴

- 「第2回世界障害者芸術祭」(ベルギー ブリュッセル市/1994年)
- 「バラレルアーツ展」(新京橋プラザ/1997~2001年)
- 「アナザースピリットアート展」(新阪急ホテルロビー/2001年)
- 「NO BORDER #2」(高知県立美術館/2002年)
- 「画楽プロジェクト Vol.1『うみだすもの、うまれること』」(高知市文化プラザかるぼーと/2007年)
- 「画楽プロジェクト Vol.2『つながること、ひろがるもの』」(高知市文化プラザかるぼーと/2009年)
- 「画楽プロジェクト Vol.3『アートと暮らし』」(高知市文化プラザかるぼーと/2012年)
- 「スピリットアート展のあゆみ」(豪工ミュージアム/2012年)
- 「スピリットアート(高知県障害者美術展)」(高知県立美術館/1997~2020年)

関連イベント

無観客公演!

「桜の森の満開の下」(原作:坂口安吾)を
劇団「シアターTACOGURA」がリーディングにて上演!

物語の柱となる桜の花。大胆な花のモチーフを数多く描く開徳の作品。それらが交じり合う表現に挑戦します。

- 原作: 坂口安吾
- 脚本・構成: サカシタナオミ/シアターTACOGURA
- 演出: 藤岡武洋

配信情報等、詳しくはこちらをご覧ください →

【HP】 <https://theater-tacogura.wixsite.com/kochi>



ライブ配信公演日時

5.30(±) 20:00~

【あらすじ】鈴鹿峠の山賊が通りがかりの旅人を襲い八人目の女房をさらってきた。とびきり美しいこの女は、山賊に六人の女房を殺すようにいい、残る一人ピッコの古女房は女中にした。ほどなく女は山を嫌がり山賊とピッコ三人で都に出る。都で女の要求はエスカレートし。~桜の下をうかつに通ると気が違う。



豪工ミュージアム公式HP・SNS

